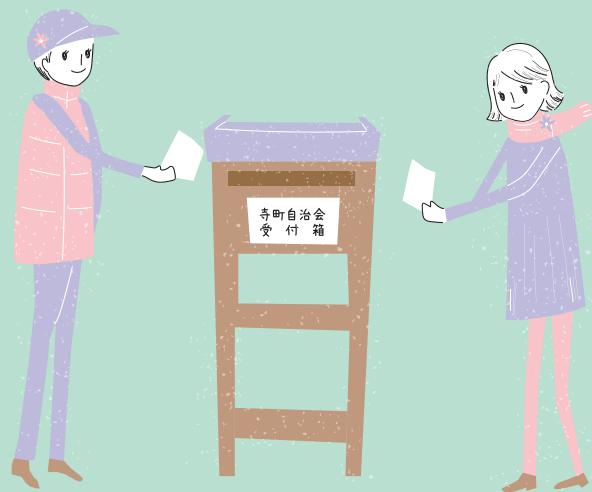


つながるスイッチ!! 久留米市社会福祉協議会



vol.13 支え合い推進会議 —その⑨— 「南薫校区」の 取り組み

支え合い推進会議の取り組みを紹介していくシリーズ第9弾。今回は「南薫校区」をご紹介します。

南薫校区まちづくり振興会

会長 田中 幹雄 さん
たなか みさお

事務局長 河野 文紀 さん
かわの ふみのり

南薫校区自治会連絡協議会

会長 稲益 千白 さん
いなます かずあき

困りごとアンケートから 活動のスタートまで

南薫校区支え合い推進会議では、地域の現状を把握するため、令和3年7月に75歳以上の高齢者を対象にした困りごとアンケートを実施しました。その結果、困りごととして「草取り」が一番多く、次いで「買い物」や「電球交換」が多いという傾向がみえました。この結果は、環境連や防災士会、民児協などの団体とも共有し、各専門分野の立場から、今後の改善策等を示してもらいました。

さらに、普段から自治会活動を大事にしている南薫校区では、「課題は地域ごとに違うはず。自治会別のアンケート結果を見たい」という意見が数多く出ました。その後、自治会別結果を各

自治会にフィードバック。「自治会ごとに地域性があり、困りごとも様々でした。そのことを改めて把握できてよかったです」と田中さん。

その次に行ったのは、自治会別結果を基にした各自治会内での話し合いです。

「自分の地域の一番の課題は何か」「まず何に取り組んでいくべきか」ということについて話し合っている様子。このように、各自治会に対して、支え合い推進会議に提出してもらいました。

その内容には、自治会の課題や考え方がしっかりと反映されており、自分達のために自分達で取り組んでいこうとする意気込みを感じました」と、田中さんが話されるように、各自治会が取り組むと決めた内容は、「ゴミ出しマナーの改善」「ゴミ出し支援」「放置自転車への対応」「防災対策」「自治会活動の充実」など様々でした。

そのように各自治会の方針が決定した後には、支え合い推進会議の委員ではない自治会長にもオブザーバーとして会議に参加してもらい、自治会間の情報共有、校区全体の活動の流れの



支え合い推進会議の様子

確認を行いました。そして令和5年4月から、自治会ごとに決めた活動を、「一斉にスタートしていく」予定です。

「自治会」活動と 「支え合い推進会議」

南薫校区は、23地区ある自治会それぞれに団結力が強く、その基盤の強さが校区全体の地域づくりを支えています。自治会によっては、定期的に会議を開き、課題の共有などが行われています。ルールを決めずとも、自然に近所で困りごとを解決している例が沢山あることや、「地域のためにできることをしたい」という意識をもっている自治会役員が多いことから、南薫校区の自治力の高さがうかがえます。支え合い推進会議の場でも、「地域の困りごとを吸い上げて、その対策を自分達で考える。それが自治会の役割だ」という意見が毎回のように出てきます。

寺町地区自治会長の稲益さんは、自宅玄関に、「受付箱」を設置しています。「受付箱は、地域住民が気軽に意見を入れられるように置きました。また、近所の人のゴミ捨てなど、ちょっとした手助けは日常的にしています。小さな活動の積み重ねが住みやすい地域をつくると思っています」と稲益さん。

このように、すでに様々な活動が行われている中、支え合い推進会議でアンケートに取り組んだ理由を田中さんは次のように話されます。「改めて取り組んだ



稲益自治会長宅の
玄関先にある「受付箱」



のは、地域の足並みをそろえるためです。やはり、自治会によっては活動への意識に差があります。全ての自治会が「地域をよくしたい」という積極性をもつことで、地域全体が活性化していき、南薫校区を盛り上げていくことになると考えています。

また、会議で話すことで、意見交換ができ、地域の悩みを共有することができました。例えば、ある自治会では対応が難しいと感じていたことも、他の自治会では工夫しながら対応していて、それが活動のヒントになるかもしれない。もしくは、自治会だけでは出来ないことも、支え合い推進会議やまちづくり振興会でサポートできるかもしれない。このように校区全体で協力し、困りごとを「つひとつ解決していくために支え合い推進会議を行っています」

活動して 思うこと、 これからのこと

● 田中さん

支え合い推進会議では、中身のある会議を行いたいと思っています。実のある活動をすれば、それが次の活動の種になります。伝統を大事にしながら、そこに味付けをしていくイメージで校区をよくしていきたいです。また、自治会加入率はここ数年維持していますが、マンシヨンの増加などで、今後減っていくのではないかと懸念しています。子ども会の加入率も、多かった時期の3分の1ほどになりました。周りとの関わりが希薄になつていく時代だからこそ、自治会の活動を大事にし、元気で楽しく住みやすい町をつくらせていきたいです。

● 稲益さん

寺町自治会の手伝いを始めて20年くらいになります。自分が役に立てることがあれば、これからは積極的に活動していきたいです。以前、自治会の集まりの時に「皆でカラオケをしたい！」という声が出たことから、カラオケサークルを始めました。このように住民の皆さんの意見を丁寧に汲み取っていきたいです。今後も、寺町の皆さんが安心して暮らしていけるように、住民の困りごとをキャッチし、できる



稲益 千白さん 田中 幹雄さん 河野 文紀さん

限り地域の力で支えていきたいです。また、楽しいイベントなどを行うのもいいですね。

● 河野さん

南薫校区は、自治会の皆さんの協力のおかげで、決断や活動など全てがスピーディーだと感じています。コロナ禍で開催が難しい時でもオンラインで支え合い推進会議を行い、歩みを止めませんでした。さらに、会議について定期的に広報紙に掲載し、住民にも活動を知ってもらえるようにしています。

また、南薫校区も高齢化が深刻で、後継者育成が課題です。今後は、若い人にも地域活動に参加してもらいたいのです。体育部会やPTAなど若いメンバーが所属する部会がいくつかあるので、少しずつ地域に巻き込んでいけたらいいなと思っています。

取材を終えて

今回の取材場所だったコミセンの窓からは、五穀神社や中央公園の芝生が見渡せました。その開放感と元氣な皆さんのおかげで、明るい雰囲気での取材となりました。南薫校区は「いきいきサロン」活動なども活発で、集まる回数も多いそう。何事にも積極的に行動も早く、校区を大事に思っている皆さん。取材の中で、田中さんが「南薫校区には寺町や五穀神社、中央公園など魅力的な場所が沢山あるので、ツアーを組んで多くの人に遊びに来てもらいたい！」と笑顔で話されていました。もしかすると校区発信の観光ツアーがいつか誕生するかもしれません！

- 自治会ごとの課題把握や活動を大切にしている。
- 自治会それぞれが「自分の地域をよくしたい」という意識をもつことで、校区全体も元気になっている。
- 自治会だけで対応できないことは支え合い推進会議や校区がフォローできないか考える。
- 「できること」を考えて地域活動の歩みを止めない。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net

HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

つながるスイッチ!!は
HPでも
webマガジンでも
掲載中

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

[note——つくる、つながる、とどける。]で
「つながるスイッチ!!」を検索してください!